

2009 年度 日本学生オリエンテーリング連盟第 1 回幹事会 議事録

時間：2009 年 6 月 6 日（土）

場所：ビジネスホテル羅漢（群馬県高崎市）

1、 自己紹介

- ・省略

2、 インカレ改革について

I、インカレミドルについて

- ・現状の「予選決勝方式」の維持は困難

- ・原因

- ① 地図調査範囲
- ② 運営の負担（ヒート制、選手輸送）
- ③ 予算規模が現状に合わない

- ・提案

「ミドル一本化（予選決勝方式の廃止）」

- ・反対意見について

- ① 学生の認知不足→まず運営の現状を理解したい、させるべき
- ② 地図調査に関して→予選と決勝が被ってもよい
- ③ 一本化に伴い、選手権人数の減少は「競技中間層のモチベーションの低下」につながる→中間層の「目標」が失われる（現状は半数が通過できるため）→ロングの参加者並みになってしまう→衰退してしまいかねない

- ・現状制度に必要なこと

- ① 参加者の増加（理想は 1000 人）
- ② 運営者（コアとなるべき）の継続的な確保

- ・結論

結論はこの場では出さない。次回以降の幹事会、総会で決定（変更は総会の決が必要）

*ただし、現状（地図の調査）では一本化の準備しか進めていない。

II、インカレ規則改正案について

- ・具体的には web 資料参照のこと

- ・要点

- ① スプリントの導入→世界的な流れに沿う
- ② ミドルのウイニング変更、選手権の人数減少
- ③ リレーウイニングの柔軟性→走順により30～50分

III、オフィシャル制度について

- ・現状の運営者不足を打破したい

- ・案

- ① 廃止
- ② オフィシャルを出す大学は、運営者を出す
→罰則は設けない、オフィシャル本人でも可
→ただし、強制参加された人が運営として戦力になるか？罰則は設けないとしても、大学間格差が顕著になる。

- ・結論

→後日アンケートをし、次回以降の幹事会で話し合い

3、09年度秋インカレについて、TCG 報告

- ・2009年11月22日「前高原」

・一年を切って、インカレを開催できるテレインがあるのは「栃木」のみ
→山川氏自ら、実行委員長を務め、運営、渉外などの迅速な対応をしていく

- ・TCG 報告

→理想は「テレインのサイクルが完成すること」
→GPS の導入により、一度完成した地図の大幅修正は unnecessary になる。公平性が保てるラインでのサイクルに近づける。

- ・09年度春インカレについて

→「行川II」が濃厚「3月12～14日」

・10年度のロングについて

→「大阪 OLC」と共催。

→2010年11月21日「奈良県宇陀市」「長者屋敷越」

4、加盟登録料値上げ

- ・次回幹事会で話し合い。
- ・現状は赤字が続いており、また今後も続く予定
- ・加盟登録料の改定

5、賛助会員制度について

・具体的には web 資料参照のこと

・要点

- ・ コンスタントに賛助会員を獲得するための制度をつくるためにどうするか？

① フィードバック制度の復活

→賛助会員の出身大学の所属学連に出資の一部をフィードバックする。以前は、事務手続きの負担が大きかったために廃止になった。

→事務手続きを簡略化できた。

② 日本学連公認大会主管者の広報を義務化

→要綱、プログラムでの広報。大会開催時に窓口設置

・ 問題点

① 賛助会員への特典の有無

② 手続きの引継ぎ→賛助会員の数はその年の普及部長の腕次第→引継ぎ、継続性

6、学連行事と JOA 公認大会とのバッティングについて

・要点

→もともとは「北海道全日本大会」と「関東学連ロングセレ」が同日開催になったことに対し、JOA 側から苦言（参加人数が減る可能性があるため）を受けたことが発端。このことから、日本学連は「JOA の公認大会とのバッティングを避ける」と決定し、担当者は「広報部長」となっていた。しかし、今年「関東学連ロングセレ」と「さくらんぼ大会」が同日開催となったため問題となった。

- ・ 原因

→広報部の引継ぎがしっかりなされていなかった。資料の中にも記されていない。

- ・ 結論

→今回は JOA 側からも注意を受けていないので、特に何もしない。しかし、今後、広報はしっかり引き継ぐと共に、各学連に呼びかけること。

7、理事会報告

→なし

8、9、TCG 報告、諮問委員会報告

→2で報告済み

10、諮問委員会報告

→なし

11、各部局報告

→web 資料参照のこと

12、地区学連活動報告

→web 資料参照のこと

13、JOA とのかかわり方について

- ・ 要点

→国の公益法人改革に伴い、JOA は社団法人から新たな法人格へと変更する。この機会に日本学連も JOA の理事として参加するのはどうか？

- ・ 理事になることのメリット

→JOA に対して意見を言うことができる。上記の「賛助会員」や「バッティング問題」また「普及協力」、「学連加盟費と JOA 登録費の二重払いの問題解消の可能性（あくまで）」などがかる

- ・ 理事になることのデメリット

→「JOA の規則に縛られる」「年会費」など、おそらくもっと存在する

- ・ 結論

→まだ決定するまで時間の猶予があるため、結論は出さず。もっとメリット、デメリットを見極めるべき。

→しかし、いずれにせよ、JOA との協力は不可欠であり、日本学連にとってなるべく効果的な意見を提示できる地位を確立していけるようにするべき。

14、後援申請（名古屋大学）

→可決（全員一致）

15、次回幹事会について

→8月中を予定

以上